



新春巻頭あいさつ



(財) 交流協会会長 大橋 光夫



当協会の広報誌である「交流」の読者の皆様に、新春のご挨拶を申し上げます。本年も引き続き台湾情勢や日台間の経済、文化交流の状況等時宜を得た情報を発信できるよう努力して参りますので、引き続きお引き立ていただけますようお願い申し上げます。

さて、去年は我が国社会全体を揺るがす未曾有の震災に見舞われ、日本全体が重苦しい雰囲気でも押しつぶれそうになっておりましたが、その中で、日本各地から、また、世界各国から多くの温かい支援が寄せられ、改めて人と人との「絆」の大切さ・有り難さを再認識しました。ご存じのように、台湾からも極めて多くの、また心温まる御支援をいただきました。それに対し、日本全国から様々な形で台湾に対する謝意が表明されました。このようなやりとりを通じ、日台双方の人々の「絆」がより密接になったと感じています。

当協会では、日本の復興を更に力強く推し進めるため、台湾側と合意した「日台『絆』イニシアティブ」に基づき、台湾の各方面の協力の下、台湾観光客の訪日促進、日本の農産物等の安全性のアピール、日台間の貿易・投資・技術交流の促進、台湾メディア関係者の招聘等に取り組んでおります。私が昨年6月21日に交流協会会長に就任し、昨年9月に初めて台湾を訪問しました際には、日台双方にとって長年の懸案であった日台民間投資取決めに署名することができましたし、昨年11月にはオープンスカイにかかる日台民間航空取決めに署名することができました。投資取決めについては、中国と台湾との間で「ECFA」(海峽兩岸経済協力枠組協議)が締結されており、日本企業が台湾企業と協力して中国へ進出する等、日台双方の企業間のビジネスアライアンスにとって

大変重要な拠り所となることでしょう。また、オープンスカイの実現により、日台の地方都市間の直行便の開設が容易となり、観光交流、地方交流が今後益々盛んになることが期待されます。

昨年、交流協会会長として、台湾を2回訪問させていただき、その際、馬英九総統、蕭萬長副総統、吳敦義行政院長、王金平立法院長、楊進添外交部長、施顏祥經濟部長等とお会いし懇談する中で、改めて日台関係の重要性と台湾の皆様への日本に対する温かい気持ちを痛感しました。また、当協会としては、日台関係を長期的に安定し発展させていくため、台湾における真の知日派の育成が重要であると考えており、数年来、台湾側のご理解を得ながら台湾における日本研究促進を行ってまいりました。一昨年には台湾において「現代日本研究学会」が設立された他、現在までに台湾の6つの大学に日本研究センターが設置されています。その中には社会科学分野における初の日本研究修士課程が開設されたセンターも出てきました。今後、これら大学で日本研究を行った学生が、台湾社会で活躍し、将来の日台関係を担うようになってほしいと期待しております。

台湾では本年1月14日に総統選挙が行われ、現職の馬英九総統が勝利し、今後4年間、引き続き国民党が政権を担うこととなりました。当協会といたしましては、本年も引き続き台湾側関係者と緊密に協力しつつ、日台友好関係の更なる発展のために努力してまいる所存ですので、読者の皆様方の御理解・御協力をお願い申し上げます。

最後に、本年が読者の皆様にとって素晴らしい一年になること、また日本社会全体が明るい未来に期待できるような年になることをお祈りし、私の新年のご挨拶とさせていただきます。